

8月27日参加者9名が車に乗り合わせ、AM8:00松本を出発。曇天の中央高速道を走り、大月JCからは河口湖ICを經由し、富士スバルライン5合目を目指す。濃霧が漂う4合目付近からマイカー規制解除による渋滞に出くわすが、「佐藤小屋」泊りを示すステッカーで、渋滞する車を尻目に走り登り、AM12:00五合目佐藤小屋に到着、泊る。



佐藤小屋



佐藤小屋主人夫婦



AM3:00 出発



夜明けを迎える

5合目付近から雨が降り出し、小屋内で昼食を摂る、2時間ほどで雨が上がると、体調を整える為6合目に登る。そこは5合目駐車場からの登山道との合流場所となり、厚い霧雲の中に、頂上を目指す登山者が数珠繋ぎに消えていく。陽が沈むと夜空に星が瞬き、明日の天気を期待して、早めに就寝する。

翌28日AM3:00準備を整え、暗闇の森林帯の中、ヘッドランプを照らし登り始める。6合目から溶岩礫帯をジグザに登り、7合目付近で、夜明けを迎える。厚い雲と雲海の間から橙色に輝く太陽が昇る。足を留め、しばらくその荘厳な儀式を拝す。長い岩礫帯の登山道を登り続け、8合目3200mで朝食を摂る。中休止後、本八合目に登り出ると、須走り口からの登山者と合流する。9合目の木製の鳥居を潜り、振り仰ぐと、今まで霧雲に隠れていた富士山頂が望まれ、元気を取り戻して、確実に一步一步と山頂目指して登る。



七合目の岩礫帯を登る



山斜面の彼方に八ヶ岳を望む



九合五勺を登る



階段状の溶岩道に登り、大きな鳥居を潜ると、AM10:00登山者で渋滞する山頂の稜線に登り出る。「やった！」一休み後、お鉢巡りをして剣が峰の最高点を目指すこととする。霧に覆われた外輪コースに行く。霞む噴火口を右眼下に望み、御殿場、富士宮ルート of 合流ルートを左に見て進み、赤茶けた急坂に登り詰めると、AM11:00二等三角点の在る日本最高点剣が峰3776mに到達する。「おめでとう！」。全員で記念撮影をする。霧が漂い遠望は効かないが、皆の胸の中は、満足感でいっぱいだ。



外輪コースから剣が峰を望む 最高点目指して一步一步登る 見事剣が峰3776mに登頂 砂礫の下山道を急ぐ

剣が峰で15分程の憩いの後、富士山の御鉢巡りの残コースを半周して吉田口山頂へ向い、山頂小屋で温かい昼食を摂り、PM1:15下山を開始する。専用の砂礫道の下山路を、眼下に流れる霧雲に向かって下り続け、PM3:00、5合目佐藤小屋に到着する。PM3:30、全員乗ってきた同じ車で、往路と同じ道路を帰路として、河口湖ICから中央高速道を走り、PM6:30、松本へ到着。解散とした。

「気高く、厳しくそして大きな日本一の富士山、その頂に立ち、登頂を果たしたと誇れる」登山だった。